

令和4年度技術士第二次試験問題〔環境部門〕

19-4 環境影響評価【選択科目Ⅱ】

Ⅱ 次の2問題（Ⅱ-1，Ⅱ-2）について解答せよ。（問題ごとに答案用紙を替えること。）

Ⅱ-1 次の4設問（Ⅱ-1-1～Ⅱ-1-4）のうち1設問を選び解答せよ。（緑色の答案用紙に解答設問番号を明記し，答案用紙1枚にまとめよ。）

Ⅱ-1-1 計画段階配慮書の機能について説明し，配慮書作成に当たっての留意点を具体的に記述せよ。

Ⅱ-1-2 環境影響評価法の温室効果ガスの定義と対象物質を挙げ，調査・予測・評価方法の基本的な考え方を述べよ。

Ⅱ-1-3 「風力発電のリプレースに係る環境影響評価の合理化に関するガイドライン」（令和2年4月 環境省）の背景及び目的について具体的に説明し，その有効性と期待される効果について述べよ。

Ⅱ-1-4 風力発電事業に伴う環境影響評価の対象となる鳥類やコウモリ類といった飛翔動物への影響について説明し，具体的な保全措置について述べよ。

Ⅱ－２ 次の２設問（Ⅱ－２－１，Ⅱ－２－２）のうち１設問を選び解答せよ。（青色の答案用紙に解答設問番号を明記し，答案用紙２枚を用いてまとめよ。）

Ⅱ－２－１ 太陽電池発電所の4.1万KWを開発済みの平坦な造成地に設置する事業について，業務を進めるに当たり，以下の内容について記述せよ。

- (1) 調査・検討すべき環境影響要因と環境要素を抽出し，その内容について説明せよ。
- (2) 業務を進める手順を列挙し，それぞれの項目ごとに留意すべき点，工夫を要する点を述べよ。
- (3) 業務を効率的，効果的に進めるための関係者との調整方法について述べよ。

Ⅱ－２－２ 風力発電所の環境影響評価の対象事業は，第一種事業の規模が1万KW以上から5万KW以上に改正された。規模が大きく著しい影響のおそれのある事業の環境影響評価を進めるに当たり，以下の内容について記述せよ。

- (1) 第一種事業の規模を引き上げる場合の環境配慮に求められる措置すべき事項について述べよ。
- (2) 業務を進める手順を列挙し，それぞれの項目ごとに留意すべき点，工夫を要する点を述べよ。
- (3) 業務を効率的，効果的に進めるための関係者との調整方法について述べよ。

19-4 環境影響評価【選択科目Ⅲ】

Ⅲ 次の2問題（Ⅲ-1，Ⅲ-2）のうち1問題を選び解答せよ。（赤色の答案用紙に解答問題番号を明記し，答案用紙3枚を用いてまとめよ。）

Ⅲ-1 地域における脱炭素化の促進を図るため，改正温暖化対策法（2021年5月成立）では，既存の実行計画制度を拡充し，地域脱炭素化促進事業の認定に当たって，環境影響評価法に基づく事業計画の立案段階における配慮書手続の省略も可能とする特例を受けることができるとしている。

- (1) この制度の仕組みを述べたうえで，地域脱炭素化促進事業を進めるうえで重要と考える項目を多面的な観点から3つ抽出し，それぞれの観点を明記したうえで，課題の内容を示せ。
- (2) 前問（1）で抽出した課題のうち最も重要と考える課題を1つ挙げ，その課題に対する解決策を具体的に複数示せ。
- (3) 前問（2）で示した複数の解決策を実行して生じる波及効果と専門技術を踏まえた懸念事項への対応を示せ。

Ⅲ-2 我々は，これまで大量生産・大量消費型の経済社会活動による大量廃棄型の社会に暮らしていた。しかし，将来にわたる健全な物質循環を確保するために，一方通行型の経済社会活動から，持続可能な形で資源を利用する「循環経済（サーキュラーエコノミー）」へ移行することが求められている。環境影響評価の技術者として新住宅市街地開発事業（面積100ha以上）の環境影響評価を実施するに当たり，「循環経済」を実現するために必要となる条件等について答えよ。

- (1) 循環経済へ移行するために必要となる環境保全措置を多面的な観点から3つ抽出し，それぞれの観点を明記したうえで，その内容を示せ。
- (2) 前問（1）で抽出した環境保全措置のうち最も重要と考えるものを1つ挙げ，それを実施するために行うべき複数の予測・評価の内容を示せ。
- (3) 前問（2）で示した複数の予測・評価を実行して生じる波及効果と専門技術を踏まえた懸念事項への対応を示せ。